

京都教区時報

特別号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨
 編集 京都カトリック教理センター 住所 京都市左京区仁王門通新高倉東入 Tel 761-9095

開かれた教会って何だろう

村上透磨

ご存じのように福音宣教推進全国会議(以下ナイスと呼ぶ)は最終目標を「開かれた教会」としました。開かれた自分、開かれた共同体、開かれた教会、なんとなくかつよいと言うか、言葉に酔っているところ

があります。皮肉な人は「ということは今まで開かれていなかつたと言うことさ」と言うでしよう。

さて開かれた教会と言う時、信徒の人々はどんなことをまず考えられるでしょうか。

1 教会の門を開いていつも訪問できるようにしておることだ。と考える(ちょっと「えつ」と言いたくなるのですが……)

2 地域社会の人々に使っていただく、地域社会と共に協力し合う教会。(これらはかなり進んできている方です)

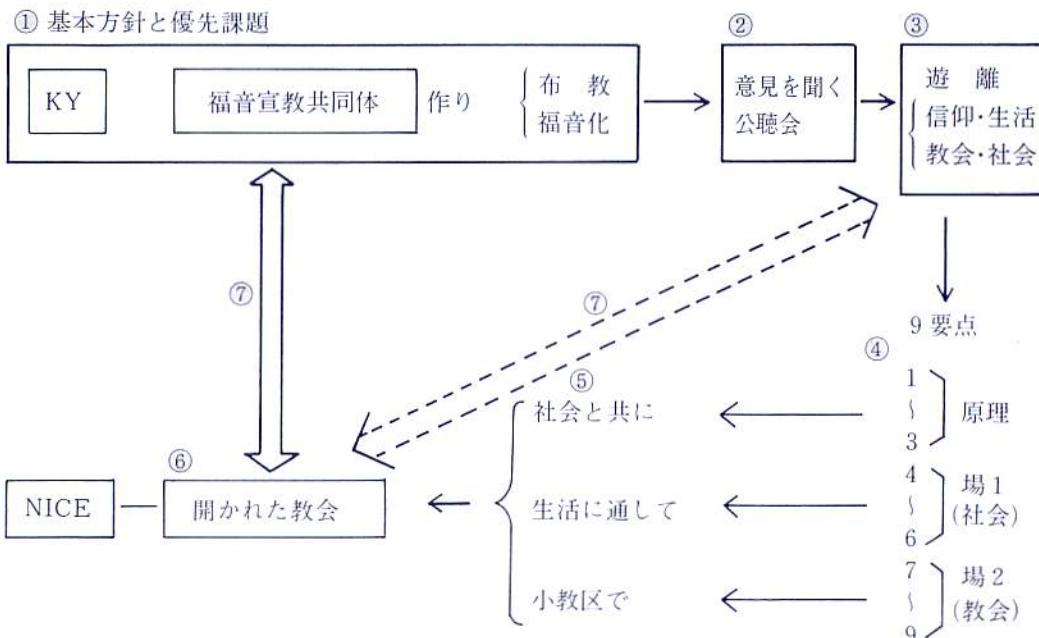
3 信徒同志、信徒と信徒でないみな兄弟の様に仲良く魅力ある教会作りをする(これは多くの人が考えることらしい)

でも以上のことで教会は開かれているというのでしょうか。ナイスはたったそれだけのことしかめざしていないのでしょうか。

そこでもう一步進んで

4 布教に出かけて行く教会。(ここで誰が?司祭、修道者、伝道士たちが?それとも信徒一人一人が?その答えによつてだいぶ違つてきます。でもこの場合結局、信徒を一人でも多く連れてくるという発想が強いようです)

5 土着化とか日本文化の受容、伝統、風習、生活、表現などにどう合わせるかという面です。それは特に冠婚葬祭やミサなどの問題、現代の日本人に会つた言葉使いなどが話される時です。



もう一つは

6 福音化という考え方です。これは基本方針2で言っていることであり、社会の中の教会という京都教区ビジョンや、現代世界憲章が語つているものです。そこでは自己の福音化と社会の福音化を語り、教会とは世界の中にあるのだと考えています。そして信仰生活は日常生活の中に現われ、社会の問題は信仰の問題だと言う考え方です。

以上は開かれた教会という言葉からくる人々が受ける印象ですが、それが正しいか、ふさわしいかを批判する前に自分たちがどの段階にいるかを反省してみることが大切です。その反省が開かれた教会への歩みとなるだろうと期待されます。

福音宣教共同体とは開かれた教会

では今回のナイスの課題は特にどこをめざすのでしょうか。そこで、「基本方針と優先課題」から「開かれた教会」の目標課題ができるまでの経過を上記の様な図表で現わしてみました。これを少し説明してみます。

① 基本方針と優先課題は福音宣教共同体を作り上げるため（優先課題1・2）と考えてよいでしょう。その目的達成のために2つの基本方針（1

布教、2福音化）をうちたてました。

② 司教団はこれに基いて、信徒みなとの意見を「聞き、吸い上げ、活かす」ために公聴会を開きました。

③ 公聴会の意見をまとめた司教団は、信徒がこれは問題だと内々思つていたことが信仰と生活の遊離・社会と教会が遊離していることであり、これに痛みを感じているということでした。これは基本方針の前文にも、能率主義、合理主義による管理化、画一化、エゴイズムという言

葉で現わされています。

信仰と生活、教会と社会がバラbaraであることはよくないことです。これを打開しない限り、あるいは打開していく方向を取らない限り教会が世界の中に存在する意味もなくなり、布教や福音化など言つていられないと司教団は判断されたのです。

④一方、出された意見を分析・整理した結果、9つの要点にまとめることがなったのです。その根底には先の「遊離」という現実があります。

⑤9つの要点はさらに3つの柱に分けられるだろうと司教団は考えました(9つの要点をどう見るかは私見を後ほど申します)。

⑥この3つの柱がさらに目ざしているものは何かと言うと、それは、「開かれた教会」という大テーマだったのです。

ここに問題の取り組み方についてとても大切なことがあります。即ち、「開かれた教会」とは何かということを考える前に、信仰と生活、教会と社会の遊離の現状を見つめた上で要点から取り組むべきです。

(勿論、問題を頭の中で整理しておくためにいつも3本の柱、大テーマを考えながら取り組むべきことは言うまでもありません)

語つてみればすごく当たり前ですが、でき上った図式を見れば意外とそのことを忘れ、「開かれた教会」とはという抽象的な討論から始められがちです。

⑦さて、ここにいくつかの結論が生まれてきたように思います。はじめ福音宣教共同体は何かと言う問い合わせ解決されぬまま討議されてきました。そこでは教会共同体とは何かについてまちまちな意見が語られ、

同じ言葉を使いながら別々の考え方が言われているという心配がありました。それで、今年の四旬節司教書はそのことに答えようとしました。また教区時報3月号から「ちょっとあなたも、ちょっとわたしも」

の項で反省してみようとしています。

ともかく、司教団は「福音宣教共同体」は「開かれた教会」であると定義したようです。そして「開かれた教会作り」をテーマとして選んだ動機は信仰と生活、教会と社会の遊離であり、それを打開するために教会は社会と日常生活の諸問題を信仰と教会の問題として取り組まざるを得ないと訴えようとしています。

これも私が受けた印象ですが、はじめ「布教化」、「福音化」の2つの指針が出されました。信徒が今、まず必要と思っているのは第2の福音化の方であると考えているようです。勿論「食卓と共に開める仲間」を一人でも増やすということを誰も否定するものではないし、否定すべきでないことは言うまでもありません。これは明らかな神の至上命令(マタイ25・15～20)だからです。

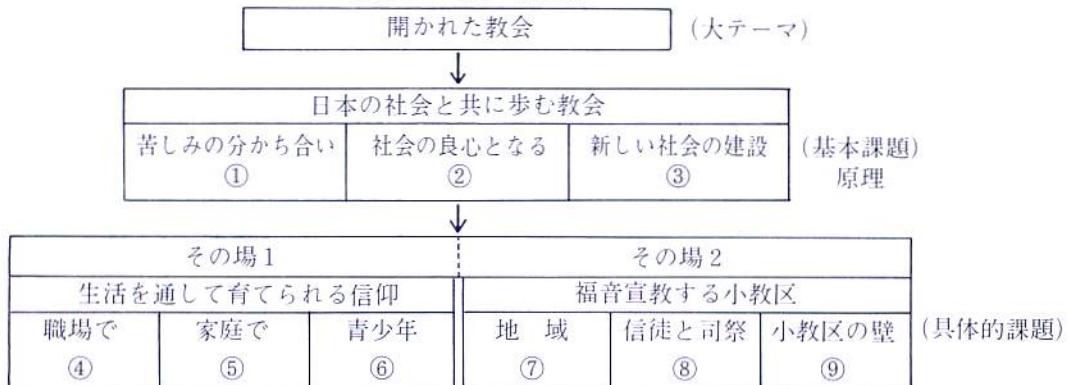
全国会議の9つの要点の考え方

9つの要点を見ていると柱1と他の柱はどうしても違うと言うことですね。併列にされた理由も確かにあると思うが、私は柱1を十分に理解し、前提しない限り他の2つの柱は語れないと思います。

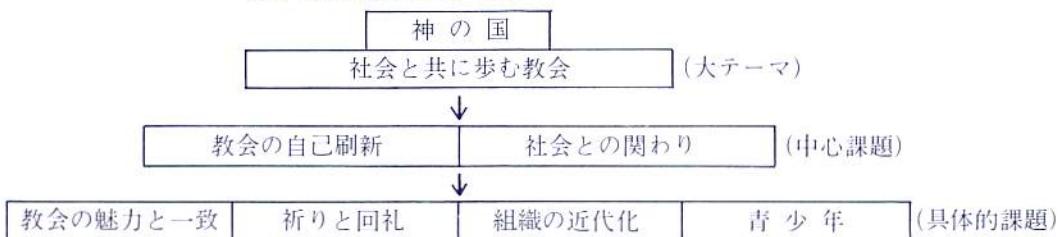
そこで、次頁の図表を見て下さい。私見ですが次頁のような図にした方がよいのではないかと思います。またこれと教区ビジョンの6つの課題の構図も参考にして下さい。

第1の柱はむしろ全体の「原理」と考えてみます。第2の柱はそれを実際に取り組む場、社会における場(家庭、職場、青少年(学校)) 第3の柱は教会、その基本である小教区とその周辺と考えられます。

課題の見方(私案)



注) 京都教区ビジョン



第1の柱では何を言っているのでしょうか。第1の要点は現状把握です。特に社会の中の苦しみや痛み、非福音的な面を知り分析することです。そこに先の「遊離」の現実を含めて考えてみます。ところで、遊離はそれに痛みを感じる場合と、非福音的な社会に生きるために考えだした生活の知恵である場合もあります。同じように人々の苦しみに無関心であることは、自分自身が倒れないための保身であるかもしれません。ところがそれでよいのかと言うのがキリスト者としての問いかけであり、それではいけないだろうというのが第2の要点です。では何によって判断するのでしょうか。おそらくキリスト者は福音の光にしたがつてと言うでしょう。福音を知らない人には良心にしたがつてと言うでしょう。(勿論すでに福音的な生き方が実際に一杯あることに気付く事も大切です)。だけど、現状を知つて、福音や良心の光にしたがつて判断したところでこれがよい、あれが悪い、だけではだめなのです。検事や裁判官でいるだけではいけない。(ところが我々は実にこれが多い)何がよいのか、正しいのか、何をすべきなのか、それがわかつたら答えていかなければならぬ。応えて新しい人、新しい教会、新しい社会作りをしなければならない。それが第3の要点です。

つまり①現状を知る(苦しみを知る、分かち合う)②それを良心、福音の光にあてる。③それによつて新しい人、社会、教会を作る。

以上のこととを具体化する場は何か。④職場の中、⑤家庭の中、⑥青少年(学校)、そして⑦⑧⑨教会の基礎的集いと思われる小教区であるということになります。実際、こういう構造の整理を頭の中でしておかないと話が混乱していくと思います。

第1の柱では何を言っているのでしょうか。第1の要点は現状把握です。特に社会の中の苦しみや痛み、非福音的な面を知り分析することです。そこに先の「遊離」の現実を含めて考えてみます。ところで、遊離はそれに痛みを感じる場合と、非福音的な社会に生きるために考えだした生活の知恵である場合もあります。同じように人々の苦しみに無関心であることは、自分自身が倒れないための保身であるかもしれません。ところがそれでよいのかと言うのがキリスト者としての問いかけであり、それではいけないだろうというのが第2の要点です。では何によって判断するのでしょうか。おそらくキリスト者は福音の光にしたがつてと言うでしょう。福音を知らない人には良心にしたがつてと言うでしょう。(勿論すでに福音的な生き方が実際に一杯あることに気付く事も大切です)。だけど、現状を知つて、福音や良心の光にしたがつて判断したところでこれがよい、あれが悪い、だけではだめなのです。検事や裁判官でいるだけではいけない。(ところが我々は実にこれが多い)何がよいのか、正しいのか、何をすべきなのか、それがわかつたら答えていかなければならぬ。応えて新しい人、新しい教会、新しい社会作りをしなければならない。それが第3の要点です。

つまり①現状を知る(苦しみを知る、分かち合う)②それを良心、福音の光にあてる。③それによつて新しい人、社会、教会を作る。

またある問題を取り上げた場合、例えればいじめの問題が議論の対象となつた時、いじめの問題は学校の問題だけでなく、家庭の問題、それは職場も含めた社会構造の問題になつてくるのです。その他いろいろな問題が一つの要点だけでは語れない面をもつてることにも留意していただきたい。

ところで、いじめは人々の苦しみの問題です(第1)それは非福音的な出来事です(第2)それを解決するよう努力する義務があります(第3)こうした問題が小教区共同体にとって無関係かというと、そうではなく解決のよりどころという役割もあるかもしれません、小教区持有一のいじめだつてあるかもしれません。

そういう全体的な関わりを考慮しながら、特に今は第2の柱、第3の柱というように取り扱つていこうとナイス第1回会議はしています。

以上の取り組み方の提案に問題がない訳ではありません。第2、第3の柱にかかるこない大切な問題もあるかもしれません。例えば放浪生活をしている人々はどこにあてはめるのかと言うような……。だからこんなことを含めて第1の柱を第2、第3の柱と同列に置くという考えがあつたのかもしれません。

やはり、第1の柱を基礎に原理として考えねば最も根本的なことが落ちてしまうように思えるのです。

そこで第1の柱をどの様に取扱つか

では第1の柱をどの程度まで取り上げてみるとかについて私見を述べてみたいと思います。

① まず、信仰と生活、教会と社会の遊離ということをふまえて、私た

ちが一人の社会人として信仰者として見、聞き、感じる人々の苦しみや痛みをあげてみましょう。そこで、いろんな分野の(第2、第3の柱、それ以外の)現状が浮きぼりにされるでしょう。でてきたところでそれを一応整理しておきます。

② それが非福音であるか福音的であるか判断します。ただし、ここであまり時間をかけると次に進むことができませんから、かなり原理的な規準を決めるにとどめます。具体的な事は後ほど、第2、第3の柱の討議の時してはどうでしょう。

ここで、一つの提案をしたいと思います。いろいろな信仰や社会生活の問題に対して、福音的、良心的に生きるとはどう言うことか、また福音がめざす新しい社会は何かという大ざっぱな教えをあらかじめ勉強しておくことです。(それを今からいろいろな所で専門家にも研究していただき)

でも余り肩をいからせず

最後に蛇足ながら、次のことをつけ加えておきたいと思います。

現代世界憲章のあの有名な書き出しに「現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ、特に貧しい人々とすべての苦しんでいる人々のものはキリストの弟子達のものである。真に人間的な事柄でキリストの弟子の影響を呼び起さないものはない」と言っています。それが要点1なのですがそれは社会の中のあらゆる問題は福音の問題なのだということでしょう。

ただここで申し上げておきたいのは、それらの問題を○○問題、例えば障害者問題、労働問題、同和問題として取り扱うより、自分の生活の中で、あらあら変だ、何かおかしい、あー痛いな、苦しいな、どうしたらよいのだろう、そういうた日常生活の中で感じられる問題を分かち合い整理し、共に乗り越えようと努力し合う、というようにかまえずに取り組んだらよいのではないかと思います。そうしないと、一般の人々にとっては重たい問題として取り組む勇気も自信もなくなるでしょう。だけど生活を見直していったらぶつかること、それが第1の苦しみの分かち合いで言うことだとするなら、それはもっと取り組みやすいでしょう。

勿論いろいろな問題に取り組んでいる人にはその体験を分かち合っていただき、それに教えられて自分のできる小さな支えや取り組みを始めたらいよいよと思うのです。開かれた教会を目指すことは自分の信仰、生活、十字架からも逃げないことです、それは当然生きるべき日常生活の中にあるのです。

ナイスはすでに始まっている

ナイスはすでに始まっています。それはただ、出された要点について教会のいろいろなグループで話し合いをする時だけでなく、日常のそれぞの生活の中で、その関わりにおいて始まっています。家庭で、職場で、学校で、地域社会で、教会で、修道院で、施設で、あらゆる生活の場でキリストの福音に従つて生きようと努力している、そこで始まっています。そういうた生活を分かち合う時、ナイスの実りが始まっています。

新しい教会を築くための具体的な方法、手段、指針を考えてみて下さい。個人的なものは勿論ですが、教会として、共同体として、神の民の集いとしてできる何かを真剣に考えて意見を提出して下さい。開かれた教会として何をしたらよいか、何をし始めようかということを考えてみて下さい。それらの豊かな意見があふれる聖霊のように流れでてくれれば、きっととすばらしい開かれた明るい日の教会が生れることでしょう。祈りの中に、聖霊の導きに信頼して始めたいと思います。

13人の代表者が各グループから集められた意見(8/13現在80グループから)を9つの各要点にてらし次の3つの観点から整理中である。(1)現状または現況をみる。(2)打開策または試み。(3)今後への展望または提案。以上のような3つの観点からまとめたものを中央実行委員会に送ることになっている。

また9つの要点の解説については中央実行委員会からもだされています。それとあわせて、皆様の参考にしていただければ幸いです。50周年記念ミサの典礼文ができました。後日、みな様のところに配布される予定です。

「ある手紙の問い合わせ」 ビデオ上映会のご案内

在日韓国・朝鮮人にに対する差別を問うビデオです

日 時 9月5日(土) PM 7時30分

場 所 小山カトリック教会

入場料 無料(どなたでもおこし下さい)

人々の現状を知り、良心と福音に照らして反省したら、新しい社会、

福音はあらかじめ準備されていない。私はすでに福音を持っていると分け与えるのではない。だから、福音を探し素直に受ける、その開かれた心だけあればいい。』(佐々木博著『人とのかかわりの中で』より)

人生経験の少ないこの私には、全国大会は余りにも大役で、神様のご計画はいつも計り知れません。フィリピンのワークキャンプで出会ったフレビーノの厚い信仰、釜ヶ崎で触れた彼らの自由で素直な心、これらは私達が遠い昔どこかに置き忘れたことではないでしょうか。私にとって福音宣教は、ぼけてしまふた祖母に温かい声をかける事です。『一台でも多く売つて来い』の販売会社の中、私の笑顔・明るい一声だと思っていきます。

福音宣教をしてください、と、云われた時さて、何をしますか。

教理についてそれほど知っていない、信仰の度合も深くないし、何もできないとお考えではないでしょうか。

イエズス様は弟子たちを一人ずつにして派遣されました。バウロも同伴者とともに宣教に行きました。

当然お互いに、司祭のこと、宣教のことなど話し合つたと思ひます。

代表者の横顔 私と全国大会

私たちの みなさまの 意見を 運びます



下平 美砂
(津教会)



花井 拓夫
(桂教会主任司祭)

福音宣教をしてください、と、云われた時さて、何をしますか。

教理についてそれほど知っていない、信仰の度合も深くないし、何もできないとお考えではないでしょうか。

イエズス様は弟子たちを二人ずつにして派遣されました。バウロも同伴者とともに宣教に行きました。

当然お互いに、司祭のこと、宣教のことなど話し合つたと思ひます。

この信仰の分ち合いがあつたということに重大な意味があります。単なる個人の信仰ではなく、分ち合つたことを伝えていたのです。今回の福音宣教推進全国会議に向けて、話し合つてください、というのは、信徒も修道者も司祭も、いろんな場で、分ち合いをするよううに望まれているわけです。

グループの支援があればキリストとの出合いの喜びを伝えていくことができるでしょう。また、キリストのお望みの全ての人が尊重されるよう、キリストの道具になれるでしょう。

二十年も昔のことです。五組の若い夫婦が毎月一度、各家庭に集まって、自分達の生活について話し合いました。この家庭会と称する会は七年間続きました。今から思えば「私達の信仰が生活と遊離しているのではないか」という、司教団からのメッセージと、同じ疑問を感じたのが発端だったように

私はノートルダム教育修道女会日本地区役員と、当会経営の高校の非常勤講師を兼任しています。幼児洗礼、修道生活二十六年目。全国会議に関わって個人的には大いに学ぶ所があり、感謝していますが、責任は日々日々

に重くなつて來ます。これまで頃いた各団体の意見から全体的に次のように感じました。

田 北 阳
(トドケルダム)



岩崎章太郎
(唐崎教会)

思います。

話し合うことは、とてもシンドイと知りました。

他人と違う自分を知ることや、互に傷つけ合いながら、一枚ずつ自分の虚飾を剥ぎ

とつていくことは、苦しみでした。でもやがて、苦しみは喜びに変りました。安心して、

心の扉を開けるようになつたのです。

私達自身の中にも、周囲にも、神に背いた心や行いが沢山あります。また、良いことは知つても、それを行えない困難な状況も

沢山あります。その難かしい状況とは何なのか、それら總てをみんなの前に並べて眺めてみましょう。その作業は、話し合いの中からでないとできないことだと思います。



二 条 紀彦
(岩流教会)

「天にまします我等の父よ」と祈りますが、「私たち」とい

う意識を大切にしたいと思います。知らず知らずのうちに「私」

が強くなつて、「福音」を生きる事を忘れているような気がします。ナイスもかなり浸透してきました様に思いますが、11月の会議だけにど

どめてしまえば、せっかく神様が「開かれた教会をつくりなさい」と呼びかけられていることに応えられなくなつてしまふでしょう。

この機会をそれぞれの場所に活かす事が、問われている一番大切な事だと思います。「信者」が「私」に促わされている処を振り返り、

「教会」が「私」の部分を改めていけるナイスであつて欲しいと感じています。

私は青年の代表という事でもあります。青年たちが「私たち」を求めて、ナイスを活かし、「開かれた教会づくり」の担い手になつて欲しいと願っています。「開かれた教会」は「私たち」の教会です。ナイス会議の書記を含めて、共にナイスを支えて行こうではありませんか!!

神は卑しいはしためを顧みられ、……
神はわたしに偉大なわざを行われた。

京都生まれの私は一九四七年、医学生の頃、古屋司教様より受洗のめぐみをうける。現在、聖母訪問会会員として草津病院に勤務。

今や日本社会は益々強者の論理がまかり通る消費文明の流れの中で、今日も福祉医療を通して、病んでいる人々、希望なく苦しんでいる人々、社会からはじき出されている人々の側に立ち切つて、そこから他にみえない力をみていきたいものです。

全国会議は私にとって、私自身の日々の回心であり、つかわされた医療の場が地域に開かれしていくことであり、市民にう

中 井 雪 子
(聖母訪問会)



私は中学一年生の時に河原町教会で受洗し、初告解の時に、

神父様から「頂

いた信仰の恵みを誰かに伝えなければいけません」と強調され、それが私の心に強烈な印象となり、その時から私の信仰は、私の宣教生活となり、ついに在俗会員として、使徒職に奉獻することになつたのです。私の宣教方法は年と共に変つて来ました。若い頃は教会の外に向つて「何とかして」と燃えていましたが、だんだん教会内の問題を次々と体験することによって、私個人が外に向うことだけではなく、先ずキリストのお建てになつた教会が、キリストの望まれる教会になること。

それは一人一人がそれぞれの場で宣教する者に成長すること。そのためにはその道具となりたいとの考えに導びかれ歩んで来ました。この全国会議は神様の御導きであり、日本の教会全體が長期ビジョンを作り出し、小教区を超えて、各プロックのネットワークが充実し、宣教推進者の養成が強力になされていくことを要望し、そのためには皆様と共に祈り、考え、実行して行きたいと思います。

私は、福音宣教推進全国会議の代表者として、選ばれた時、その責任を果す準備としてその全国会議が生みだされるまでの経過を調べました。それを調べて感じた一つのことは一九八四年に司教様達が文章で日本の教会の基本方針と優先課題を発表すると同時に文章で表わせない外のもつとも基本的な方針やもつと重大な課題を指摘したと言うことでした。と言いますのは、その十年ぐらい前から司教様たちは日本の教会の指導者として四回にわたって福音宣教に関する教書(書簡)を出しました。それはどちらかと言いますと教会の指導者の伝統的なやり方、すなはち上から下まで又は責任者から会員までの伝え方でした。それはその時までの、いわゆる基本方針と言つてもよいと思います。ところが一九八四年に教会の基本方針と優先課題が発表された司教総会に一般信者の意見を対象にする一九八七年の全国会議も発表されました。全国の信者の意見を吸いあげ、そして吸いあげられた意見や希望をもとにして全国會議にとりあげ、これから教会についての組織と活動をきめる資料になる為司教様たちと準備委員会は色々な工夫をして方法を考えました。つまり上から下までではなく下から今までの新しい方針に従つて教会の新しい姿を表わし試みました。その新しい方針が日本の教会にとつて第二ヴァチカン公会議のような



J・ラッキー
(桃山教会主任)

の刷新とか刺激になる為に私達が一人一人又他の信者と協力しておかれているところ(家・職場・社会・小教区)で真剣にイエズスさまから与けられた、よい知らせの伝え方を考へたいと思います。これは、私の希望でもあります。

全國会議まであと何日という記事に心せかされながら事務整理に追われる日々です。婦人代表ということで方々の婦人集会に出席させていただき、その中で心に残ったことを記してみます。赤ちゃんを抱かれた若いお母さんがテーマ「人々と苦しみを分けあうには」の時に「私は今、育児中で何もできませんが辻角公美子ちゃん殺害のニュースに胸をえぐられ、同じ思いをされたマリア様と心をあわせて祈つた」と言われました。

離れた所に住んでいても祈りにより苦しみを分ちあえる信仰の重みに感動し、祈る親の姿を通じて子供が神に触れ信仰を育てられるものと共に感しました。また核家族が増えてきたとはいえ大家族の中では祖父母、配偶者と信仰を異にし、気兼ねをしながら信仰生活を送っている日本独特の信仰形態もまだ多くの%を占めています。この問題はどの会에서도できますが私たちのいたいた信仰を通して家族が聖化されるというパウロ6世



川久代
(大和八木教会)

G・ラバディ
(洛星高校)

私は今、京都の洛星中・高等学校に勤めています。宗教と英語を担当しています。私は今、育児中で何もできませんが辻角公美子ちゃん殺害のニュースに胸をえぐられ、同じ思いをされたマリア様と心をあわせて祈つた」と言われました。

私は1939年12月7日、カナダ、ケベック州のモントリオールで生まれ、1956年、ヴィアートール修道会に入り、そして1966年司祭になりました。数学を教えながら米国の首都ワシントンのカトリック大学で教育修士を取りました。1968年に日本へ来て1年半日本語の勉強をしました。最近京都教区召命促進委員会のメンバーに成つて小教区を訪問し、召命のためにアビールしてきました。多分その理由で京都南部福音宣教推進全国会議の代表に選ばれたのかもしれません。とにかく日本のカトリック教会の為に何か出来れば嬉しいです。今他の代表者と一

の使徒的勧告のことばに希望と信頼をいただきました。援元神仰の恵みを幾世代にも継承させる上で家庭は予備宣教の基盤となります。私たち家庭婦人はこの役割を意識して自分を奉獻したいと思います。イエズスの福音という汲めどもつきぬ泉を手本として……。また今年がマリア年であることは偶然ではないと思います。日本の教会の大切な節目にはいつも聖母の姿があり私たちは聖靈の導きのもと聖母に心をあわせて御國の建設に協力できればと皆様の意見を運ぶ準備をしています。

緒に一生懸命準備をしています。どうぞよろしく。



永川浩
(西陣教会)

61年2月行わ

れた司教公聴会

は日本のカトリ

ック信徒の信仰

に関する「生の

声」を直接聞くと言う画期的で有意義なものでした。私はその公聴会参加と南信協役員と言ふ事で、今回のナイス京都代表者会に加わりました。

私達メンバーは、ナイスの目指す「開かれた教会づくり」の9要点の内容を一人でも多くの方に伝え、考え方を語り合って頂き、その結果を出して頂き、11月23日に向けてのレポートも京都としては、抽象的集約型ではなく、出来れば「生の声」を反映するものにしたく、及ばずながら努力しています。第1回大会が将来に向けて意義有るものとなりみのり有るものとなる事を心から祈っております。

自己紹介ですが、私は西陣教会に籍を置いています。今歌う事に依る祈りがなおざりにされており残念です。

出来る事なら、老若男女が心を合せて神を賛美するカトリックの合唱団が地元に出来る事が夢です。



J.ローベス
(国際基督教大司教監理会)

私はアイルランド人で24年前に日本に参りました。第1回福音宣教推進全国

イ二ニ大和郡山教会
J.ルード主任司祭



会議は、日本の教会に与えられた、神様のもつとも大切な宝物だと思います。この大会の準備のおかげで教会全体は、教会の使命、又その教会に属している我々一人一人は自分の役割を深く自覚しつつあると思います。教会は御國の建設のために存在していると思います。今まで司祭・シスター・聖職者にまかせられていたようですが、この準備のおかげで皆一人一人は教会の中の自分の役割を深く自覚しつつあると思います。開かれた教会と言ふ課題は聖靈が悟らせて下さったことではないかと思います。今、出発だけですが、日本教会は一つの靈、一つの心となつて社会の中で、まことの御國をあかしするものとなりますように」と祈ります。聖靈は大いに今の教会に働いていらつしやると信じています。

「おひとりですか、お国は暑いでしょうか、炊ですか、それともレストランに行かれるのですか」こういう質問をよくかけられる。私の場合はレストランの方が多いだろう。なぜか自分で作るのは面倒臭い。

福音宣教推進全国会議に向かっている私ちにこういうことが教えられているのではないかでしょうか。未来のことではなく、今からもう、その美味しい開かれた教会を作るのに必要な準備が始まっています。ご意見や望みがたくさんもう来ていました。皆で作る大切なことです。それを通じて福音を証しし、信仰の証しを築くことができるでしょう。

「良い知らせを誠意をもって受け入れる人々は、その受容力と分から合う信仰の力によつて、イエズスの名のもとに共に神の国を求めるために集まり、神の国を建て、そこに住みます。彼らは共同体を作りますが、それは福音宣教するためです……宣教使命は、全てのキリスト者に、それぞれ違った方法でえられています」（福音宣教勧告13）

準備して買い物をして、メニューやお鍋を選び、ガスのことなど……。また、美味しくなくでき上がりした料理を食べて、お皿を洗い、片づける。レストランへ行くのは、行くだけで楽しい、全部やつてくれる。上手な料理専門家が作ってくれる。そのかわりに払います。ミサへ行くのはそれだけでたのしくて満足。信仰はそういうものではないだろうか、とうふうに考える人はまだまだ多いと思う。誰でも作ってもらって吃べるのは楽です。信仰の証しをするのは大変面倒です。誰でも準備してくださった食卓に座る方が好きだけれど、信仰の場合は準備されたテーブルがあります。信仰ならば自炊しかありませんし食べだからまたお皿洗いがあります。反省しながら、今日悪かったけれども明日ももう一度やってみたい。信仰生活というのはそういうものではないでしょうか。



永川浩
(西陣教会)

61年2月行わ

れた司教公聴会

は日本のカトリ

ック信徒の信仰

に関する「生の

声」を直接聞くと言う画期的で有意義なものでした。私はその公聴会参加と南信協役員と言ふ事で、今回のナイス京都代表者会に加わりました。

私達メンバーは、ナイスの目指す「開かれた教会づくり」の9要点の内容を一人でも多くの方に伝え、考え方を語り合って頂き、その結果を出して頂き、11月23日に向けてのレポートも京都としては、抽象的集約型ではなく、出来れば「生の声」を反映するものにしたく、及ばずながら努力しています。第1回大会が将来に向けて意義有るものとなりみのり有るものとなる事を心から祈っております。

自己紹介ですが、私は西陣教会に籍を置いています。今歌う事に依る祈りがなおざりにされており残念です。

出来る事なら、老若男女が心を合せて神を賛美するカトリックの合唱団が地元に出来る事が夢です。